

2013年(平成25)1月

カルメル  
**霊性センターニュース**



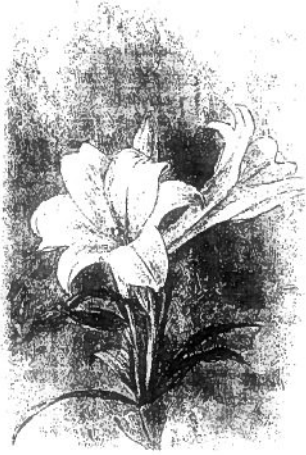
**2013年1月**

**283号**

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	43
編集後記	44

# 心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI  
キリストにならう バルバロ訳



## 第一巻

### 第二十五章 生活を熱心に改める

#### 1 勇気と忠実さ

神に仕えるにあたって、警戒を怠らず、勤勉でありなさい。そして、なぜ自分は修道会に入ったか、なぜ世俗を捨てたかを、しばしば考えなさい。それはまったく神に生きるためであり、霊的な人となるためではなかったか？ゆえに、熱心に完徳を目指して進みなさい、そうすれば、まもなくあなたは、今までの労苦の報いを受けるであろう。そこにはもう、どんな恐れも苦しみもないであろう。あなたの労苦は、もうしばらくのことであろう。その後には大いなる休息、いや、永遠の幸福があるであろう。もしあなたが、忠実、かつ熱心に善をおこない続けられれば、必ず神は、あなたに忠実で寛大に報いるであろう。あなたは、報いに達するという確かな希望を、いつももっていなければならない。しかし、熱心さを失わず、傲慢に陥らないためには、それが確實だと思いこまないほうがよい。

#### 2 いらだちと不安

恐怖と希望との間をいつも不安のうちに揺れ動いていたある人が、ある日、煩悩に耐えかねて、聖堂内の祭壇の前にひれ伏して祈り、心のなかでこう考えた、「おお！もし私が、最後まで善の道が続けられると知っていたら…。するとすぐ心のなかに、天からの答えを聞いた。「それを知ってどうするつもりなのか？おまえは今、もし知ったとしても、今したいと思うことをおこないなさい。そうすればおまえの心配の原因はなくなる」と。その人はすぐ慰めを得て励まされ、神のみ旨に自分をゆだね、不安に心を騒がせることもなくなった。その人は、もう自分の行く末がどうなるかを探ろうとはしない。むしろ、すべての善行を始め、成し遂げるのは神の思し召しによることで、自分は「何かよいことであり、神に喜ばれ、何が完全なのか」（ローマ 12・2）を一心に探すことだと知った。

# 信仰年に

神と親しく生きるために — 1月 —

新しい年にあたり主の祝福をお祈り申し上げます。

主がみ顔を向けてあなたを照らし

あなたを守られるように

あなたに恵みを与えられるように

主がみ顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように

民数記6・24



新年は

「神の母」の祝日ではじまります！

神がマリアを選び、  
無原罪のおん宿りの恵みを  
与えて神の母とされたことは、  
まったく無償のたまものです。

神は ただ、

ご自分の中からあふれ出る  
「自らを与えたいという望み」に  
従われたにすぎません。

神から溢れ出るもの、それは  
愛であり  
神のうちにあって

広がってゆこうとする神の愛の力を  
受け取る器、つまり人間の側には、どのような基準をも設けることは  
できません。神ご自身が、ご自分の僕の小ささに身をかめられるのです。

～『わたしは神をみたい いのりの道をゆく』より～

聖母文庫、聖母の騎士社

神の母の祝日にあたって、神から溢れ出る慈しみの愛の深さ、広さをあらためて感謝したいと思います。この慈しみの愛をさらに深く信じ、信頼し、委ねて生きる信仰年の日々でありますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

## インドネシア紀行〈5〉

くのり 彰  
九里 彰

翌日は、私の誕生日。朝食後、志願院（十字架の聖ベネディクタ修道院）のあるマロンゲラへ、フェリックス管区長と共に出かける。9時出発。車で3時間余と聞いていたが、これはすごかった。かつて舗装された跡があるという感じの道路で、あちこちに亀裂が入り、穴があり、凸凹だらけ。スピードを出すことができない。東日本大震災の後の東北の状態を、インドネシアで体験しているような感じであった。時速、10～15キロであろうか、止まるようなスピードで、右に左に、上に下にゆられながら、この時間を耐えた。車ではあったが、江戸時代のかごに乗ったような感じであった（無論、かごに乗った経験はないが）。

すでに指摘したかどうか忘れたが、フローレス島は、インドネシア 33州の中で一番貧しい州だということである。イスラム教の国であるので、キリスト教徒の多いフローレス州は経済支援が後回しにされているのではないかと邪推したくなった。

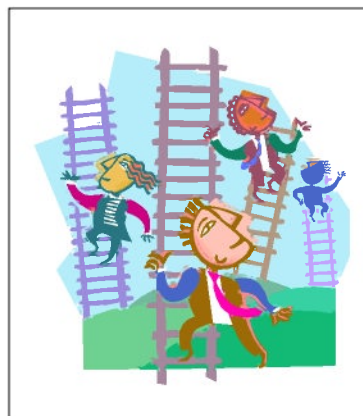
マロンゲラの村近くになると、道は大分よくなった。村人たちはお祭りの準備をしていた。カルメル会に土地を寄付した村の長にも会った。寄付された土地は一ヶ所でだけでなく、二三ヶ所のように、全部合わせると、100ヘクタール（30万坪）以上とのことであった。村人の生活は農業で、きわめて貧しい。

村からさらに山の方へ上って行くと、山の中腹に修道院が見える。木々はほとんど生えていない。途中、大きな池があり、牛たちに水をやるために、水道管がそこから延々と引かれている。修道院には、院長、志願者担当の神父、牛担当の神父、中間期の神学生、他に14人の志願者たち、合計18人が住んでいた。猿も一匹飼っていた。建物はきれいにできていたが、電気は自家発電で、テレビも1日に二三十分しか見ないとのこと。

昼食の後、車で丘の上の牧場に行く。牛は174頭。牛担当の神父によれば、今年は30頭近く子牛が生まれたという。人間だけでなく、牛の方の召命も多い。牧場には建物が二三あったが、宿泊に一軒だけ使用している模様。牧場の中央に高い物見の塔があり、これに登る。 （続く）



# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（161）



## 下降志向

私たちが生きている社会は、数え切れない仕方で、私たちの行くべき道は上ることであると告げています。トップになること、脚光を浴びること、記録を破ること…、これらは人々の注意を引き、新聞のトップページに載り、お金と名声という報酬をもたらすのです。

イエスの道は、根本的に異なっています。それは上昇志向の道ではなく、下降志向の道です。底辺に下ることであり、人々の後になることであり、最後尾を選ぶことです。なぜイエスの道は選ぶに値するのでしょうか。なぜなら、それが神の国への道であり、イエスが取った道であり、永遠の命をもたらす道だからです。 (0628)

## 教会の片隅に行くこと

世界の片隅にいる人々は、教会の中心にいるのだということ、それは、そうなるように期待されている事柄なのです。こうして私たちは、教会のメンバーとして、社会の片隅にいる人々へとおもむくよう呼ばれているのです。ホームレスの人々、飢えている人々、親のない子供たち、AIDSの人々、情緒障害の兄弟姉妹たち、彼らは、私たちがまず注意を向けるよう求めているのです。

私たちは、確信しています。私たちが全力で社会の片隅にいる人々に手を差し伸べようとするならば、些細な不一致や実りのない討論や互いを委縮させる対抗意識などが徐々に薄れ、消え失せて行くということです。教会は、私たちの注意が自分自身から世話を必要としている人々へと移る時、常に新たにされることでしょう。イエスの祝福は、絶えず貧しい人々を通して私たちのもとへやって来ます。貧しい人々と働く人々のもっとも顕著な体験は、結局のところ、貧しい人々が、受け取る以上のものを与えてくれるということです。彼らは、私たちに糧をくれるのです。 (1101)

(九里 彰訳)

## 主の公現の祭日 (C)

みことばのひびき

(マタイ 2:1-12)

私たちの光であるキリストはこの世に来られ、暗闇の中で輝きます。このご公現の祭日にキリストは独特のやり方で私たちにご自分の姿を現わされます。ご公現の祭日は、東からユダヤの王を崇めるためにやって来た三賢人が代表する全ての人たちへの主の公現の神秘です。

何よりも、きょうの祭日は私たちに神には外国人や部外者はいないということを示します。神の考えでは、全ての人は等しく愛する子供なのです。私たちの間には身体的、文化的な相違はあっても、私たちは皆一人の御父を持つ一つの家族に属しています。これは私たちが皆それぞれの兄弟であり姉妹であるということを意味しています。国家や、民族、宗教、階級、職業などによる差別はないのです。イエスにおいて神は全世界に手を差し伸べられていることを語っています。

三賢人の物語は、神がご自分を現わす方法の物語であり、神の啓示が受け取る様々な応答についての更にも多くの物語です。私たち皆の生活の中には数多くの神の現れがあります。実は旧約と新約の聖書はそのような啓示の表現なのです。私たちは三人の賢人に対する神の顕示から多くのことを学ぶことができます。彼らは神を探し求める巡礼者で、彼らの喜びは発見したとき大きなものでした。彼らの信仰はすなおで、深く宗教的でした。彼らは心の中に特別な目的を持っていて、特定の方向に歩みました。彼らは星について行き、神に出逢いました。このことは私たちも神を探し求めなければならないことを、そして神を見出すまでは休んではならないことを教えています。

公現の祭日は光の反射です。イエスの誕生を通して私たちはこの世への光の到達を見ます。三人の賢人は空の輝く星について行きました。彼らにとって、その星は旅の終わりに彼らを待っていた世の光の充満の小さな反射にすぎませんでした。三賢人を通して、私たちは希望、喜び、そして平和がやって来るのを見ます。イエスの洗礼を通して、私たちはこの世における光の聖務の始まりを見ます。カナの奇跡を通して、神の光が最高の力を水の成分の上に現わすのを見ます。

これら全ての出来事は私たちに自分たちも世の光となるように呼ばれていることを思い出させてくれます。心の中で神の光に照れられて、私たちは前へ進み、キリストの光が私たちに授けてくださる希望や、喜び、平和であるよい知らせを他の人たちと分かち合うように呼ばれています。キリストの祭日を祝うとき、世の光であるキリストを反射させましょう。神は三賢人にされたように、私たちに星を示してください。私たちは自分の生活の中で何が星であるかをたずねます。賢人たちは星を見てそれについて行きました。賢人たちは星が自分たちをどこに連れていくかを知りませんでした。彼らはただ星について行き、星はついに彼らをベトレヘムに、イエスに連れて来ました。同様に同じ星が私たちの王であり、主であるイエスに私たちを導いてくれます。

(Sr. Paulina)



「天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降ってきた」(ルカ 3, 21-22)。

イエスの上への聖霊の働きかけは、その懐胎のときからはじめて生涯にわたって継続して行くのですが、「鳩のような目に見える姿」で降るのは、この洗礼の場面だけです、マリアへのお告げの時には、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む」(ルカ 1, 35)とだけ言葉で告げられ、可視的な現象は何も言及されていません。ここでは、「目に見える姿で」と明記され、人々へのしるしとなることに強調点があります。また、聖霊は、イエスに何か新しい次元を開くと言うよりは、むしろ、人々にはまだ知らされていないイエスの人格の内密、使命、働きを公に知らせる契機となるのです。

福音の記述は、「鳩のように」と「鳩」に注目させますが、ここで思い起こすべきは、確かに、ノアの洪水に終了を告げたオリーブの枝をくわえた鳩の記述です(創世記 8, 8-12)。この鳩は、罪に支配された世の終わり、新しい創造、新しい神に祝福された民の始まりを告げ、また、永遠の神と被造界、そして民との契約を告げています(創世記 9, 1-19)。イエスの洗礼は、罪に閉じ込められ罰せられた世界の終焉、新しい創造、新しい永遠の契約、新しい神の民の開始を告げるものです。また、雅歌に目を転じてみると、鳩は神の民、神に愛された、そして神の愛に誠実に応える民の象徴となっています。鳩の姿には、神との契約に忠実な神の民が、隠されているわけです。

洗礼は、罪に支配された古い人間とのイエスの連帯を徹底化するものであると同時に、新しい神の民の過ぎ越しの先頭に歩むイエスを、その公の生涯の初めに描いているのです。この過ぎ越しを、イエスは十字架の死に完結することになります。「しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう」(ルカ 12, 50)。また、イエスの受難と死は、過ぎ越しといわれています。「エルサレムで遂げようとしておられる最期」(ルカ 9, 31)、「最後」と訳される単語は、「脱出」を意味しており、ここでは、イエスによる新しい、決定的な出エジプト、奴隷状態から自由への過ぎ越しを指しています。イエスはお一人ではなく、御自分の後に多くの民を引き寄せてこの過ぎ越し果たされました。わたしたちも、洗礼によってイエスの民の一員となり、過ぎ越しの旅に入らせていただくのです。ルカ渡辺幹夫

## 年 間 第 2 主 日 (C) (ヨハネ 2:1-12)

今日の福音はイエスが行われた最初の奇跡を紹介し、わたしたちへの贈り物として差し出しています。それはカナの婚宴においてでした。イエスは、ユダヤの慣習に従った清めの六つの大きな石がめに水をいっぱい入れるようにお命じになり、上質の葡萄酒に変えてくださったのです。石がめの水は注がれると最高の葡萄酒に変わっていました。質素な家族の婚礼の宴で、花婿の当惑を知ったイエスが、母マリアの願いにも応えて行われた初めての奇跡です。何という優しさ！何という寛大さ！感動してどうしてよいかわからないほどです。この奇跡は、全ての人を招き寄せ、共に食卓を囲みたいと切望しておられる、メシア、イエスの永遠の宴を指し示すものでもあります。

イエスは母の願いを聴いて「わたしの時はまだ来ていません」と仰せになります。マリアは、イエスが神の力を持っておられることを既にご存知だったのでしょう。マリアは、エリザベトご訪問のときに見たように、隣人が困っている時、心からの同情と関心を寄せられる方でした。イエスはこのマリアの思いにお応えになり、神にしかお出来にならない奇跡をもって上質の葡萄酒を満ち溢れるほどにお与えになりました。味見した宴会の世話係にとって未経験の大きな驚きでした。「あなたは良い葡萄酒を今まで取って置かれました。」

イエスはこの奇跡をご自身の栄光を現わす機会となさいます。石がめの水は葡萄酒に変えられますが、これは目には全く見えないことです。この上質の葡萄酒は、イエスが新たに知らせておられる新約の新しい生き方を象徴しています。それは過去のものよりはるかに優れたものです。そしてこの新しい葡萄酒は十分に振る舞える上質のものでした。神の並はずれた寛大さを表わしています。「わたしは彼らに命を与えるため、しかも豊かに与えるために来た！」満ち溢れる葡萄酒は、旧約の終わりの神の救いのしるしです。

今日の奇跡は、人には考えられないような寛大で気さくな愛の持ち主であるイエスの神性を顕すものです。イエスの度の過ぎた寛大さに驚き、感動し、理解出来ないほどです。婚宴に同席していた弟子たちはこのようなイエスを見て、イエスを信じたとヨハネ福音書は告げています。わたしたちも同様に愛である神の全能の力と威厳に満ちたイエスに出会います。聖体は愛なる主、神イエスの絶え間ない現存のしるしです。主は聖体のうちに、その愛によってわたしたちを寛容にし、わたしたちの愛を深め、聖体祭儀を真の過ぎ越しの食事とさせていただきます。主日の聖体祭儀が賛美と感謝のうちに分かち合う特別の食事となりますように！最後にもう一度カナの婚宴の母マリアに目を向けましょう。「この人の言うとおりにしてください」。マリアの言葉が花婿のその日を救いました！この言葉は、わたしたちにも意味深いものです。マリアは教会を代表しています。教会を通してキリストはわたしたちの中に来られ、教会を通してわたしたちはキリストのところに行くのです。キリストの神秘体における積極的な関わりを大切にし、神の恵みのうちに、神の現存による生きた信仰をもって常に主と共に生きるものとなりますように！

(Sr. Paulina)

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(ルカ 4, 21)。

今日の福音は、イエスの宣教活動の最初の場面です。最初と言うことは、始まりでもあり、原点、常に戻ってゆく基本姿勢と言う意味でもあります。そして、イエスの活動とは、その地上の生涯の間の働きと言うだけではなく、十字架の死と復活、そして、天に上げられ御父の右に座し、教会に聖霊を送り、今も働いておられるイエスの永久に変わらない姿勢でもあるのです。

イエスは、その活動を旧約聖書のイザヤの預言の言葉を引用しつつ始めました。「主の霊がわたしの上におられる。……主の恵みの年を告げるためです」と。そして、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と断言される。「主の恵みの年」、これは、ユダヤの人々の言葉では「ヨベルの年」と言われる年です。旧約聖書の規定で、五十年ごとにこのように呼ばれる年がめぐってくるようになっていました。この年が宣言されるとその時点ですべての借金は返済の義務から解かれ、奴隷とされていた人たちも解放されて自由なものとなされ、借金の抵当に入っていたもの、特に土地、神が与えた「嗣業の地」は、本来の所有者に無条件で返還されるはずでした。そして、人々は、すべての隷属、負債から免除され新しいものとしてまっさらな状態に戻され、また始めからやり直せる、そんなありがたい年なのです。イザヤの預言は、この神の恵みの年を単なる理想にしておくのではなく、実現する方が来られると予言していたのです。

イエスは、この預言が、御自分において無条件に実現すると宣言されます。ヨベルの年に本来の所有者に戻される「嗣業の地」は、土地と言うよりも、わたしたち自身の存在、命です。神からわたしたち一人一人に与えられた生命です。しかし、わたしたちは、この命を自由なものとしてよりは、罪と死に売り渡されたものとして生きているのではないのでしょうか。「ところで子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。死をつかさどるもの、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死に恐怖のために、生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした」(ヘブライ 2, 14-15)。イエスは、今日も、わたしたちが御言葉に心を開く時、この解放の働きをし続けていていきます。

ルカ 渡辺幹夫

「新しい歌を主にうたえ。

さあ、み名を祝し、

日に日をついで、主の救いを告げよ。」

新しい年の到来。あらゆるところ「新しい」で満ちています。

一年の計も、志も、気持ちも。見なれた街のたたずまい、太陽の光、窓から流れ入る風さえもが新しさに輝くかのようです。

そして手帳も新しくなりました。

まっさらな手帳を手にして、今、漠漠とした遥かさの前にたたずむ思いをしています。

手帳のことでは、昨年暮れに書店で目にした光景は、特筆すべきものでした。私が手帳を求めるのは、いつも四谷のサンパウロときまっているので、これまでに他の手帳売り場を気にかけてことはありませんでした。たまたま近くの本屋さんに行ったとき、店内の最前列特等席に設けられた手帳売り場の中へとつい迷い込んでしまったのです。

売り場の広さもさることながら、何というあまたの種類、数量なのでしょう。ありとあらゆる形、大きさ、色彩、絵柄が並びに並んで、そのさまはあたかも万華鏡を見るようで、一瞬茫然としてしまいました。

ケータイやら、スマホやら、何やらかにやらと、私など追いつけないどころかそもそも追うことすら不可能な、チンプンカンのデジタル時代にあって、手帳がこれ程までに必要かつ愛着を得ているのかと驚き、恣意ながら人間を自慢したくなる感動を覚えたことでした。それにしても、この万華鏡の煌めきの中から、どのようにしてただの一冊を選び出すのでしょうか。興味津々です。

幸いなことに、私自身はカトリックという迷わぬ規準があるのですが、しかし、カトリック手帳も年年新しい趣向が凝らされているようです。

この数年私は、友人から呆れ顔をされ、とてもそこまで悟れないなどと厭味を云われながら、ひとつの手帳を愛用しているのですが、それは表紙一面に目を奪われる豪華な聖書的絵画が描かれ、しかも、裏表紙にはそれにふさわしい聖句が記されていて、ほんとうにきれいな一目瞭然のカトリック手帳なのです。

正直に云えば、もはやスケジュール表など持ち歩く必要はないのですが、長年の習慣というのか、身分証明、お守り、お友だちといった感じで、空白余白でありながら手離すことができないでいます。紙と鉛筆が身近にいつもある

ことが、大きな安心感であるのは、やはり、古い昔の人間というのかもしれませんが。

手帳は軽くて手に持ちやすく、それにとっても身に近いものです。

亡父は病床で、最後の最後まで小さな手帳を手にしていました。その手帳は今、私のところに大切にありますが。

短歌のような俳句のようなものが書き連ねられ、当然ですが文字は次第に読み難く乱れています。愛おしい父の筆跡が乱れゆくのは、かすみゆく父の命そのもののように思えて、私は一頁一頁、紙面の父の手ずれに指を重ねて、父を偲び慕います。

かろうじて判読できる最後の句は「生も死も 一つの扉 風立ちて」 そのあとは、たたかえど・・らしい文字が三度、文字通りの絶筆です。

私はその頁に十字架のキリストのご絵を貼りました。

「罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます。」

2013年版の私のカトリック手帳は、「受胎告知」の美しい絵画です。

「おめでとう 恵まれた方 主があなたと共におられる」と聖句が添えられています。カトリックの暦があり、聖人方の格言が挙げられ、おもだった祈りの言葉が記されています。これ等は単に覚え書きということではないでしょう。

この手帳を持って新たな一年が始まります。

私は神さまのたなごころに彫り刻まれているのだといいます。立つのも坐るのも、髪の毛の数まで全てを、神さまはご存知といいます。

もし、神さまの手帳などというものがあるとするなら、宇宙のような大きい手帳でしょうか。それとも、左胸のポケットに入るような小さい手帳でしょうか。と、稚い遊び心を誘われながら、今、頁を開きます。

創造主であり、今も働いておられる慈しみ深い父がおられ、この世に降誕され、今もいつも世の終わりまで必ず一緒にいてくださる方、そしていつの日か必ず来られる方、私たちが待ち望む方がおられる。

それゆえにこそ、この手帳に授けられるいかなる日もいかなる時も、「すべては恵み」であることを心に置いて印のようにして、常に目をさまして、素直に日めくりをしてゆきたいとねがうのです。

主イエズス きてください



## シスターMのこと

甲斐信好

「あなたには、神さまが必要よ」。

私の若さを諭すようにシスターMから言われたのは、もう 25 年以上前のことになります。

20 代後半、私はタイの首都・バンコクの大学におりました。出発前、日本で半年間タイ語を学んで行ったのですが、ほとんど使い物にならず。お世話してくださったタイ人の先生から、午前中はタイ語の学校に通い、午後大学に来るように、と命じられました。

午前中 4 時間みっちり学んだタイ語学校は、バンコクの繁華街・スラウオン通りにありました。日本でも有名なタイシルク、ジム・トンプソン本店のちよっと先です。偶然ですが、「ユニオン」という学校名が示すようにキリスト教のミSSIONナリーが母体で、さまざまな国からタイに宣教に来ている人たちと一緒に学ぶことになりました。イタリア人の陽気な神父様や、北欧から来た真面目な青年牧師がクラスメイトです。

ある日のこと、地下のカフェテリアで食事をしていると、隣から日本語が聞こえてきます。同じタイ語学校に通う日本人のグループらしい。

タイ人は、ピーという土地の精霊を信じています。物事がうまく行ったらピーのおかげ、逆にピーを怒らせると祟りがある…「ピーって実際に居るんだよ」と一際大きな声でしゃべっているのがシスターMでした。

「あなたも入りなさいよ」と言われて私も仲間入り。10 歳くらい私より年上の彼女が、カトリックの修道女と知ってびっくり。だって、彼女の話題はピーに始まって、「イエスキリストは 30 歳までインドを放浪していたのよ」「輪廻転生ってあるからね」…どこがカトリックやねん！と突っ込みを入れたくなる話のオンパレード。

当時「カトリック＝権威の総本山」のように思っていた非信者の認識をぶち壊すための彼女の深謀遠慮、というのは、うがちすぎでしょうか。いずれにしても、シスターMと人生のさまざまな話をするようになるまで時間はかかりませんでした。



ある日のこと。いまはもうなくなったインペリアルホテルのコーヒーショップで、私は自分の考えをシスターMに熱くしゃべっていました。日本の政治は正さなければいけない、自分は日本をこんな風に変えて行きたいんだ…今から考えれば超赤面ものの、しかし真剣な（と自分では思っている）若さゆえの大演説だったように思います。

その時、ポツリと彼女が言ったのが、冒頭の言葉でした。

「よくわかったわ。でもね、あなたには神さまが必要よ」。

一瞬、虚を衝かれたのをよく憶えています。頭でっかちな、地に足のついていない弱さをどこかで感じていた自分。足元がすくわれるような思いでした。

シスターMは続けて、「どんな神様でもいいのよ。でも、どうせ信じるなら、カトリックみたいな老舗が一番安心よ」。見事なトーク（笑）。この人が信じているものなら自分も信じてみてもよいかなという思いが、30歳のとき私自身の受洗に結びつきました。

彼女の任地であるタイ国境の都市（その当時、カンボジアからたくさん難民がタイに逃れてきていました）を訪れたこともあります。別れ際に、「日本に帰ったら会って欲しい人が居るの。悪いけどお土産を渡してくれる」と言われて「ああ、いいよ」と。その「会って欲しい人」が、やがて自分のパートナーになろうとは夢にも思いませんでした。

考えてみれば、信仰と配偶者と、大切なものをシスターMのおかげで与えられました。人の縁とは、本当に不思議です。

忘れた頃にべらんめえ調で電話をかけてくるシスターMは今も変わりません。数年前、教会からすっかり足が遠のいていた私たち夫婦に、久しぶりの電話が。

「教会に行っているの？」「いや、あんまり」と私。

「しかたないわねえ」とシスターMは続けて、「あなたの家の近くの教会に、声の素敵な神父様が居るわ。その人のところに行きなさい」。

こうやって「教会難民」だった私たちは、上野毛教会に通うようになりました。またここでも、彼女を通して神様のお導きがあったようです。いつもありがとう、シスターM！

# いのちの言葉 12月

言(ことば)は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には  
神の子となる資格を与えた。

(ヨハネ 1・12)

このみ言葉は、イエスがすべての人に  
告げ知らせ、もたらしてくださった大切  
な新しい出来事を示しています。つまり、  
神と親子関係を結ぶこと、恵みによって  
神の子となることです。

ではこの恵みは、だれに対して、どの  
ような形で与えられるのでしょうか。それ  
は、イエスを「受け入れた人」に、また、  
これから先イエスを受け入れていく  
人々に対して、与えられる恵みです。で  
すから、私たちの救い主としてイエスを  
信じ、信仰と愛をもって、彼を受け入れ  
ることが求められます。

ここで「神の子である」ということが、  
どのような意味を持つのか、もっと深く  
考えてみましょう。

そのためには、神の御子イエスに目を  
とめ、彼が御父とどのような関係を持っ  
ておられたかを見れば、すぐに分かりま  
す。イエスは、「天におられる私たちの父  
よ」と、御父に向かって祈られました。  
イエスにとって、御父は「アッパ」、すな  
わち「お父さん」であり、彼は限りない  
信頼と愛を込めて、御父を見つめておら  
れました。

しかしイエスは、私たちのために地上  
に来てくださったので、ご自分だけが御  
父とこのような特別な愛の交わりを持っ  
ておられることに、満足されませんでした。  
ご自分の死を通して、イエスは私た  
ちを贖<sup>あがな</sup>ってくださり、私たちを神の子、  
ご自分の兄弟姉妹にしてくださいました。  
そして私たちも、聖霊によって三位  
一体の中に入ることができるようにして

くださいました。こうして私たちも、イ  
エスの神聖な呼びかけ、「アッパ、父よ」  
(\*1)、「お父さん」という言葉を、自分の  
ものとして言うことができるようになった  
のです。またイエスは、この言葉に含  
まれるすべてのもの、すなわち、御父か  
ら守られているという確信、安心感、御  
父の愛に自分を委ねること、神聖な慰め  
や力、熱意を私たちに与えてくださいま  
した。この熱意も、自分は愛されている  
と確信している人の心に生まれるもので  
す。

<sup>ことば</sup>言は、自分を受け入れた人、その名を信  
じる人々には神の子となる資格を与え  
た。

私たちは、洗礼と洗礼から生まれる恵  
みの生活によって、キリストと一つにな  
り、キリストと共に神の子となることが  
できます。

今月のみ言葉にある、一つの動詞「な  
る」に目をとめると、この神との「親子  
関係」は日々築かれていくもの、たゆま  
ず深められていく生き生きとした交わり  
であることがわかります。確かに私たち  
は「神の子となる」必要があるのです。

そして、私たちが神の子となり、その  
子として成長していくためには、神が与  
えてくださる恵みにこたえ、み旨を生  
きることです。神のみ旨は、神への愛と隣  
人への愛、という愛の掟<sup>おきて</sup>の中にすべて集  
約されています。

実際、イエスを受け入れるとは、すべ

ての隣人の中に、イエスを見ることです。そして、それらの人々が、私たちの愛の中に、限りない御父の愛が火花のように輝くのを見ることができれば、彼らもイエスを認め、イエスを信じることができるでしょう。

**信**は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

今月は、イエスが地上にお生まれになったことを特に思い起こす月です。ですから私たちも、互いの中にキリストを見て、そのキリストに仕えながら、互いに受け入れ合うよう努めましょう。

御父と御子は聖霊において、互いに愛し合い、互いを深く知っておられますが、その交わりを、私たちも御父との間で生きることができるようになるでしょう。そして、「アッパ、父よ」というイエスの呼びかけの言葉は、いつも新たに、私たちの口にのぼることでしょう。

キアラ・ルービック

\* 1 マルコ14・36、  
ローマの信徒への手紙8・15

\* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1998年12月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

## ●お知らせ

### 家庭的な喜びの雰囲気の中で

関東： **いのちの言葉の集い**

とき： 12月9日（日）

14：00から

ところ：藤沢市労働会館にて

長崎： **クリスマス会**

とき： 12月23日（日）

12：00から

ところ：滑石教会 信徒会館

### み言葉を生きて

我が家の隣には、三年前に義父をなくした年老いた義母が一人で住んでいます。このごろ、身体の不調を訴え、病院では異常はないと診断されたのですが、頻繁に病院に通いたがるようになりました。私も付き添いますが、お医者さんの「気持ちの持ちようです。」という言葉に、義母はしぶしぶ納得していました。ある日も、不調を訴えてきました。この日は私も疲れていて、話を聞くことも億劫に思えたのですが、「私は、今日とてもやさしい気持ちにはなれないのでイエズス様、あなたがわたしの代わりに義母の話を聞いて下さい。」と、祈りました。義母の訴えを聞いていくうちに身体のことだけではなく、義父の亡きあと整理しなければならぬ気がかりなことがあり、そのことも思い煩っていることがわかりました。とりあえず義母の話に耳を傾けました。話を聞いているうちに、義母の家に向う時の沈んだ気持ちは消え、気がつくと1時間ほど過ぎていました。その頃には義母も落ち着いてきたので、家に戻りました。帰り道は、心もかろくなり、温かさで充たされていました。「与えれば、与えられる」というみ言葉がこころにうかびました。（北海道 H）

### 連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (65)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### コルポラーレについて

聖女（訳注：アヴィラの聖テレジア）は、1568年にヴァッヤドリドの創立のため、ヨハネ修士を連れて行き、そこに約二カ月滞在し、従順な修練者のような彼にいろいろ教えました。その時、次のようなことが起こりました。

香部屋の修道女が、ミサのためのコルポラーレ（訳注：聖具を置くための布）を準備するのを忘れてしまいました。それに気づくと、ヨハネ神父に向かって、小さな小さな声で言いました。

「神父様、私が忘れてしまったコルポラーレを、母テレジアが御覧にならないように、祭壇に持って行ってください」。

「姉妹よ、行きなさい」とヨハネ修士は言いました。「叱責から逃げてはいけません。手に、むき出しのままのコルポラーレを持って、創立者の母様の前を通りなさい。もし何を持って行くのか聞かれたなら、コルポラーレですと答えなさい」。

明らかなことでしょうか、この場合、彼は、その修道女の自然さや単純さや謙遜さを、彼が彼女の願った愛の行為をすることによって勝ち得たであろうこと以上に評価しているのです。

### 聖人と聖女の他の逸話

二人の改革者の他の逸話は、次のようなもので、聖女（訳注：アヴィラの聖テレジア）自ら語りました。

十字架のヨハネ神父に告解した時、聖女は、彼に対する愛情から、しかるべき尊敬をもって彼に接しなかったと思うと告白しました。

その時、彼は、重々しく真面目に振る舞いながら、彼女に答えました。

「娘よ、それは悔い改めるように」。

聖女が大きな形でご聖体を拝領するのが好きであると知ると、彼は、静かに静かにそれを取り、彼女に半分だけ与えました。全部授けなかったということです。このことも、聖女が物語りました（『靈的報告』1572年11月18日）。他の機会には、修道女たちの前で、ヨハネ修士は、秘跡の秘密を侵すことなく、聖女に言いました。

「母様、告白する時は、しっかりと謝るように」。

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。



<< **Communications** (時事通信) >>

## シリア アレッポの跣足カルメル会シスターたち

アレッポの跣足カルメル会シスターたちの生活は、  
戦争のただ中で信仰の生きた証しとなっています。

アレッポーシリア発 (2012年12月1日)

シリアのアレッポの跣足カルメル会シスターたちは、戦争のただ中で信仰を証しする模範を示し続けています。シリア政府軍と反乱軍は、依然として武装対決の姿勢をとっており、すでに2万人もの難民を出しています。現在、180の学校がすべてのものを失った家族の避難所となっています。さらに、多くの人々が難民キャンプで生活しています。

アレッポの跣足カルメル会シスターたちは、「食糧は軍事統制下にもかかわらず毎日届きますが、あらゆる物の物価が高く油などは手に入らない状態であり、またガソリンはほとんど無く、情報の通信は極めて困難です」と知らせてきています。

現地のシスターたちの共同体は、家屋の一部は破壊されたものの、誰も殺されてはいないとのこと。しかしながら、共同体の友人の何人かは武力攻撃の際に殺されました。

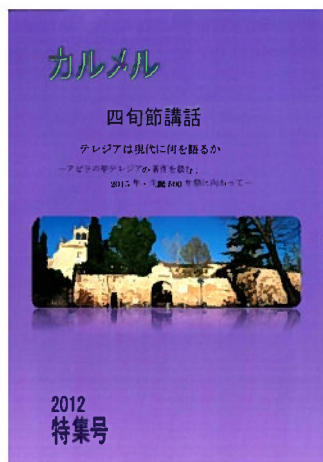
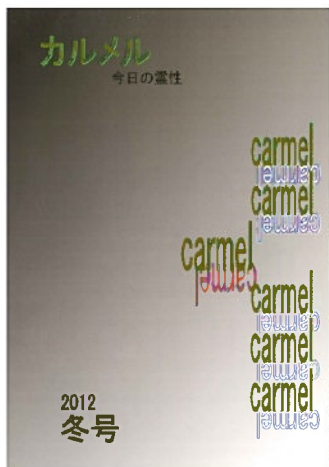
アレッポの跣足カルメル会シスターたちは、「私達たちの共同体は、信仰と希望の精神で今のすべての困難を生き抜く決意をもっています。私たちが、主の召命に忠実であるよう、そして召出しに喜んで応えることができるよう、皆さんのお祈りをお願いします」と伝えてきました。

そんな中で、シスターたちの修道院では毎日ミサが捧げられています。一週間の内、5日間は近くの教区司祭により、あとの2日間は大変な険を冒してやって来るカルメル会司祭によって。





「カルメル」  
今日の霊性・秋号  
特集号・四旬節講話



2012 冬 No.347

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

紗藻の修道院に入る (3) 奥村一郎 52

悲しむこと、生きること、つながること、そして… 谷口正子 46

— ある高位聖職者の断悔

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (9) 40

愛宕までの長い道のり マリー・エウジェニス 藤・辰 伊藤留子

修道院生活 春夏秋冬 (6) 高橋重幸 34

カルメルにおいて「新しい福音宣教」を考える (2) 中川博道 28

わたしは教会の娘です… 中山真里 22

イエスの聖テレサの中の「共同体」 松田浩一 15

アビラのテレサとエウヂャット・シユタインの霊的絆 (2) 須沢かおり 9

現代における「従順」の意味 (4) 九里 彰 3

— 聖テレジアの「創立史」を中心にして

● 目次 ●

● 目次 ●	テレジアの涙	新井延和	2
	「完徳の道」に見る「祈りと生活」	九里 彰	10
	アビラの聖テレジア(アヴィラの聖テレサ)の「創立史」にみる信仰の歩み	松田浩一	22
	神の住いであるわたしたち	中川博道	35
	— 『靈魂の城』に聴きながら		
	三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯	渡辺幹夫	46

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356



# カルメル会の企画案内



## 上野毛霊性センター ～'14年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

### 1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》  
2013年12月24日(火)～25日(水)《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
2013年 3月28日(木)～31日(日)《講話なし、各食事つき》

### 2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時)

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

1月10日	「ご聖体とわたしたちの信仰」	古川利雅神父
3月7日	「イエスとの出会いをもたらす宣教」	中川博道神父
7月4日	「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」	福田正範神父
11月14日	「カルメルにおける宣教」	中川博道神父
12月5日	「神の愚かさ、宣教の愚かさ」	福田正範神父
2014年		
2月20日	「復活の主の第一の使信」	福田正範神父

### 3. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時)

2013年

2月22日	「カルメルの原始会則の霊性」	渡辺幹夫神父
4月19日	「預言者聖エリア」	福田正範神父
6月7日	「ロスアンデスの聖テレサ」	古川利雅神父
10月4日	「ラウレンシオ修士」	古川利雅神父

2014年

1月24日	「カルメルの霊性、聖母マリア」	福田正範神父
-------	-----------------	--------

### 4. 奉獻生活者の為の黙想会

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土)	福田正範神父
----------------------------	--------

2013年

7月29日(月) 18時～ 8月7日(水)	九里彰神父
-----------------------	-------

8月12日(月)18時～8月21日(水) 福田正範神父  
10月7日(月)18時～10月12日(土) 福田正範神父  
12月27日(金)18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

4月27日(土)15時～29日(月・休)16時

11月2日(土)15時～4日(月・振休)16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日(土)15時～23日(月・休)16時

7. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2013年

3月17日(日)18時～3月19日(火)16時 「過ぎ越しの子羊・キリスト」

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

5月24日(金)20時～26日(日)16時

11月8日(金)20時～10日(日)16時

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません  
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

## 降誕祭のミサに参加するための黙想



\* 日時： 12月24日（月）夕食なし～25日（火）朝食後10時まで  
24日（月）は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕（日中のミサ）にかけて  
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過  
ごしましょう

\*費用： ￥4000

\* お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
電話：03-5706-7355・FAX03-3704-1764

### ★★★★★ 上野毛教会クリスマスミサご案内 ★★★★★

#### ★ 12月24日（月）降誕夜半

16：00～ 子供のミサ

19：30～ （クリスマスキャロルは、19：00～）

0：00～

#### ★ 12月25日（火）主の降誕

7：00～ （早朝ミサ）

10：30～ （日中ミサ）

18：00～



## 講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



### カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

2013年 2月26日

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

2013年 3月1日

### キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

2013年 2月12日

3月12日

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

2013年 2月15日

3月15日

### キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》

夜のクラス《19:30~21:00》

16	1月11日	「キリストと共に歩む道」(2)
17	1月25日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	2月8日	「主の祈り」
19	2月22日	「キリスト者が大切にしていること」
20	3月8日	「秘跡」(1)
21	3月22日	「秘跡」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

## 2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日(火) [講話なし、各食事つき]

## 2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

信仰を生きる：2012年10月11日～2013年11月24日

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	1月 12日(土)～13日(日)	キリストへの信頼	松田浩一神父
	5月 25日(土)～26日(日)	三位一体の中で祈る	今泉健神父
	7月 13日(土)～14日(日)	信仰宣言に生きるカテキズム	松田浩一神父
	9月 7日(土)～8日(日)	牧者キリスト	今泉健神父
	11月 2日(土)～3日(日)	信仰と行い	九里彰神父
【聖書深読黙想会】 ・ 1日 (午前10時? 午後4時)	2月 2日(土)		九里彰神父
	4月 6日(土)		九里彰神父
	6月 1日(土)		九里彰神父
	9月 14日(土)		九里彰神父
	11月 30日(土)		九里彰神父
・ 水曜の黙想 (午前10時? 午後4時)	1月 23日(水)	主の祈り (悪からお救いください)	松田浩一神父
	2月 27日(水)	祈り、節制、愛の業	今泉健神父
	3月 20日(水)	十字架	今泉健神父
	4月 17日(水)	復活の信仰	九里彰神父
	5月 15日(水)	信仰年における聖母マリア	松田浩一神父
	6月 26日(水)	靈魂の城	今泉健神父
	7月 24日(水)	信仰の種	九里彰神父
	9月 4日(水)	キリスト信者の霊的生活のカテキズム	松田浩一神父
	10月 16日(水)	アピラの聖テレジアとイエス	今泉健神父
	11月 13日(水)	キリスト教神秘を祝うカテキズム	松田浩一神父
	12月 18日(水)	クリスマスを迎える心	今泉健神父
	・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)	3月 2日(土)～3月 3日(日)	光への飢え渇き
・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)	12月 14日(土)～12月 15日(日)	人間となった神の子への信仰	松田浩一神父
・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)	9月30日(月)～10月 1日(火)		伊従信子師
【キリスト教霊的同伴】 (午後 8時～午後 3時) 限定10人	5月 2日(木)～5月 6日(月)		松田浩一神父



カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)	4月28日(日)～4月29日(月) キリストの呼びかけに従う	今泉健神父
	11月9日(土)～11月10日(日) キリストはあなたを呼んでいる	今泉健神父
【一般のためのカルメルの霊性入門 (午後5時～午後4時) (午前10時? 午後4時) (午後5時～午後4時)	2月9日(土)～2月10日(日) 「イエスの聖テレサの新しい人間への道」	松田浩一神父
	3月16日(土)	古川利雅神父
	10月26日(土)～10月27日(日) 「テレサ的カルメルの霊性 No.1」	松田浩一神父
奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)	8月2日(金)～8月11日(日) 8月17日(土)～8月26日(月) 12月27日(金)～1月5日(日)	松田浩一神父 今泉健神父 松田浩一神父

#### 祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月28日(木)～3月31日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にご利用いたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

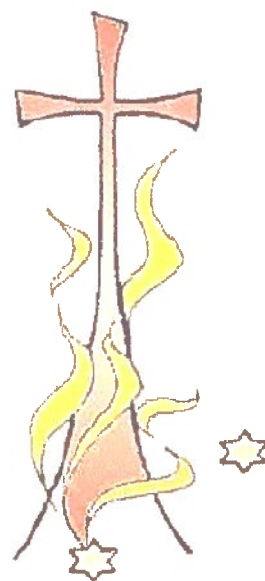
### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

### 【開催日】

- |   |       |                   |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土)   |
| ② |       | 2月 8日(金)～ 9日(土)   |
| ③ |       | 3月 8日(金)～ 9日(土)   |
| ④ |       | 4月12日(金)～13日(土)   |
| ⑤ |       | 7月12日(金)～13日(土)   |
| ⑥ |       | 9月 6日(金)～ 7日(土)   |
| ⑦ |       | 10月11日(金)～12日(土)  |
| ⑧ |       | 11月22日(金)～23日(土)  |
| ⑨ |       | 12月 6日(金)～ 7日(土)  |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土)   |
| ⑪ |       | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ |       | 3月28日(金)～29日(土)   |
- (毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
 E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## …～都会の中の一泊静修～（2013）…

（テーマ）信仰年の課題「イエス・キリストのセンスを磨く」…2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一日静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父（上野毛修道院）
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン（宣教カルメル修院）
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父（三馬修道院）
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父（宇治修道院）
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父（宇治修道院）
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父（本部修道院）
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父（上野毛修道院）
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師（ノートルダム・ド・ヴィ）
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父（上野毛修道院）

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会（地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分） \*聖テレジア幼稚園隣接

\* 参加費 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約30名

\* プログラム

10:00～	祈り・導入・黙想
10:30～	講話（1） 黙想・赦しの秘跡または面接
11:50～	昼の祈り・お告げの祈り
12:15～	昼食
12:50～	黙想・赦しの秘跡または面接
13:30～	講話（2）
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会・分かち合い
16:00～	終了予定

☎ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

## 2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会  
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 \*聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

\* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、  
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



## 靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
CWC（キリスト者婦人の集い）  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2013年予定

- K 1 1/26 (土) -2/1 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- N 1 3/6 (水) -3/12 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ

## 真命山の靈性



## 御聖体、愛の秘跡



祈りの集い（午前10時～午後3時）  
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

## 自然

神はすべてを作り  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

## 祈り

## 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を  
分かち

## 交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性, 1
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿 「ルカ 2, 46 ヨハネ 2, 21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ 1, 14）

### 指導者

フランコ・ソットコルノラ神父  
（真命山院長）  
ダニエレ サルティ・サルトリ  
神父  
Sr. マリア デ・ジョウルジ

### 申し込み先

865-0133  
熊本県玉名郡和水町1391-7  
真命山諸宗教対話・靈性交流センター  
TEL 0968-85-3100  
Fax 0968-85-3186  
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
（要予約）

## リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2013年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、  
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、  
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の  
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の  
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。  
冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世紀～21世紀初頭)

01/05、01/12、01/19、01/26、02/02、02/09

### ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

### ●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はクルトゥルハイム聖堂。  
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。  
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

### ●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJ

### ハウス第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

2013年1月5日、2月2日、3月2日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

### ●黙想会

2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊6600円程度。

### ●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 18時～20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

### ●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。

10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時

### ●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内SJハウス第5会議室  
2013年1月26日(土)

### ●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012～3年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

12/23:◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内ク  
ルトウルハイム2階、80人限定)  
12/28, 1/4○休み  
01/11:希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩  
む  
01/18:霊の動き— 福音による生き方  
01/25:秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰  
02/01:神の言葉— 神との日常的な対話と黙  
想の仕方  
02/08:結婚と独身— 愛の道  
02/15:信徒・司祭・修道者— 誰もが召されてい  
る  
02/16-17:●黙想会(東村山)  
02/22:仕事という人間の課題— 社会と教会に  
寄与して働く  
03/01:人間の苦悩— 悪とは何のためか  
03/08:死— その受け入れと克服  
03/15:人生の完成— 神の内に生きる  
03/22:聖母マリア— 信じる者の原型  
03/29:○休み  
03/31:◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク  
ルトウルハイム2階、80人限定)

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012～3年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[聖霊]

12/23:◆ミサ(14時、ルトウルハイム2階、80人限定)

[教会]

01/15:信仰者の共同体— 教会の本質

01/29:救いのしるしと実現— 秘跡の意味

02/05:憐れみと愛の祝い— 罪のゆるしとミサ

02/16-17:●黙想会(東村山)

02/19:「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト

03/05:人間と世界の究極の未来— 終末の約束

03/19:信仰者の原型— 聖書と教会の教えに見  
られるイエスの母

03/31:◆復活祭ミサ(14時、ルトウルハイム2階、80  
人限定)



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)



1年の終わりのミニ黙想

2012年12月29日（土曜日）

信仰年の始まった2012年の年末

1年の振り返りと新しい年を迎えるにあたり

神の慈しみへの希望と信頼を深めるために

ミニ黙想会で師走のひと時を過ごしてみませんか



- ◆ 2:00 沈黙の祈り
- ◆ 2:30 ~ 3:30 講話
- ◆ 3:30 ~ 4:00 沈黙の祈り
- ◆ 4:00 ~ 6:30 お茶・質疑応答・み言葉の祭儀

場所：ノートルダム・ド・ヴィ 参加費：200円

\*\*\*\*\*

お申込み・問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com  
ホームページ <http://www.ndv-jp.org/>

\*\*\*\*\*

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年  
1月26日（土）

講話 伊従信子 片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-3  
2-35

TEL(03)・3594・2247  
FAX(03)・3594・2254  
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com  
ホームページ  
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

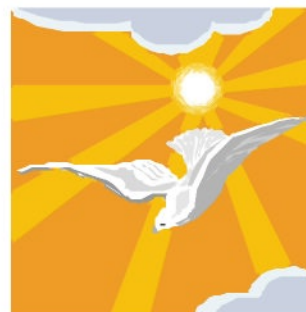
- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：  
A. 8日間の個人指導による黙想  
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。  
① 3月 5日(火)～ 3月13日(水)  
② 8月14日(水)～ 8月22日(木)  
③ 9月27日(金)～ 10月 5日(土)  
④ 12月27日(金)～ 2014年1月 4日(土)
- B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)  
【神との親しさの中で日常を生きるために】  
① 2月 8日(金)～ 10日(日) ② 4月 5日(金)～ 7日(日)  
③ 5月 3日(金)～ 5日(日) ④ 6月14日(金)～ 16日(日)  
⑤ 7月 12日(金)～ 14日(日) ⑥ 11月 1日(金)～ 3日(日)  
⑦ 11月 29日(金)～ 12/1日(日)
- C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)  
5月26日(日)～6月3日(月) 北村 善朗 師 (京都教区)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
- いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

☆お申込みは、各集いの連絡先に記されている人に、電話か Fax でお願いします。

### 【連絡先電話・Fax】

若山美知子 Tel : 03-5802-3844 Fax : 同左  
Sr. 藤岡 Tel : 084-921-6266 Fax : 928-7962  
鎌田治子 Tel : 0467-31-9835



補充情報が随時ホームページ「スケジュール」コーナーに掲載されます。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

### ●サダナ I (17:30～16:00)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす瞑想会。

	場所	指導	連絡先
1月11日(金) - 14日(月)	東村山三位一会会	植栗	若山美知子

### ●サダナ II (17:30～16:00)

サダナ I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

	場所	指導	連絡先
2月8日(金) - 12日(火)	援助マリア会福山修道院	ラフォント	Sr. 藤岡

### ●自己を知る (9:30～17:00)

生き生きと喜びのある人生を送るため、またより良い人間関係を育むためのワークショップ

	場所	指導	連絡先
3月9・10日+16・17日	町田祈り研修の家	植栗	若山美知子

### ●日帰りサダナ (サダナ・フォローアップ) (9:30～17:00) (指導: 植栗)

サダナ I やサダナ II を体験済みの方のために。“継続的な進歩”をめざす。

	場所	連絡先
2月3日(日)	市谷援助修道会研修室	若山美知子
2月 未定	鎌倉聖母訪開会本部	鎌田治子

CWC (キリスト者婦人の集い)

## カルメルの靈性に学ぶ

『完徳の道』

日時：2013年

2月12日(火)、4月9日(火)、6月11日(火)

10:30~12:00

場所：真生会館



九里彰神父 (カルメル会日本管区長)

慈しみ深き会

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

日時：2013年

2月13日(水)、4月10日(水)、6月12日(水)

14:00~16:00

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール

12月のみマリア聖堂(ミサ有り)

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

\*参加費無料(献金歓迎)

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

少しの時間、**新刊案内**  
いのりのみ言葉に  
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**  
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。  
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著

伊従信子 訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先





# カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」  
アビラの聖テレサ  
マルセル・オクレール著  
福岡カルメル会訳



「創立史」  
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」  
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」  
十字架の聖ヨハネ著  
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

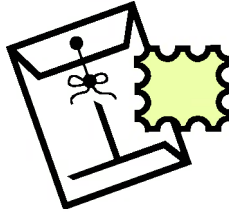
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

# 靈性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



来年(2013年)1月から12月までの『靈性センターニュース』  
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。  
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

来年1月以降のお申し込みは、  
翌月から12月までのお申し込みとなります。  
例：1月申込の場合は、2月号～12月号(8月号休刊除きます)  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込受付期限：12月20日まで

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

## 『靈性センターニュース』 お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



新年、明けましておめでとうございます。

今年も「靈性センターニュース」をよろしく願い致します。

### 編集後記

世界は、交通、通信の発達により、ますます小さくなり、globalization はとどまることを知らない。個々の国々の利害や歴史文化の特殊性を超えて、好むと好まざるとに関わらず、一つの地球家族が形成されていくことだろう。戦後の日本で見られた現象が世界規模で起こるのではないか。すなわち、日本のどこもかしこも同じような生活様式、生活水準となっていくように、アフリカでもアジアでも南米でも、欧米と同じような生活様式、生活水準へと均一化していくのではないか。もちろん、世界全体がそのような状態になるには、まだ百年、二百年とかかることだろう。が、外面的な生活は、遅かれ早かれ、似たり寄つたりのものになっていくように思う。その時、人間の内面的な生活は。どのようになっているのであろうか。自然科学がすっかり宗教に取って変わっているものであろうか。 (P. 九里)

昨年も、皆様のあたたかいご援助とご協力により、『霊性センターニュース』を発行し続けることができました。

「信仰年」を迎え、この小冊子がみなさまの霊的生活に少しでも役立つものとなりますよう努力してゆきたいと思っております。

今年一年が、東日本大震災の被災者の方々を始め、多くの困難や苦しみにある人々にとって、主の恵みに満ちたお年となりますように、スタッフ一同、心からお祈りいたします。



P. 丸尾 彰 o.c.d.

**Merry Christmas  
& a Happy New Year!**



カルメル霊性センター事務局



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として[毎月第四火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「2月号」製本日

[1月22日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171